







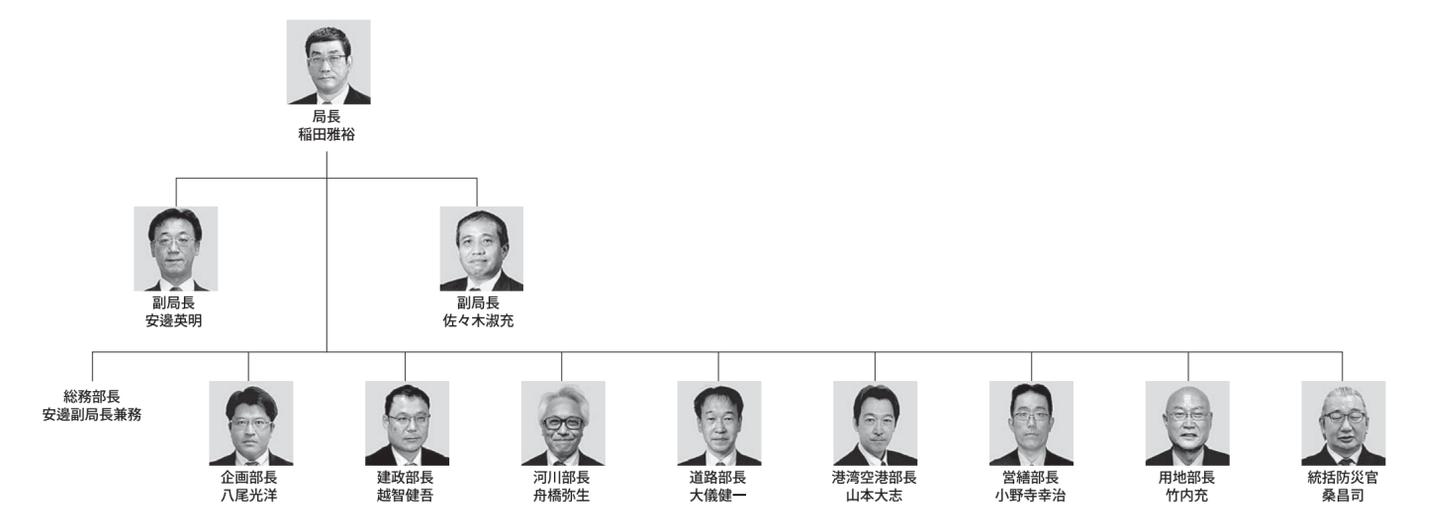


国土交通省 中部地方整備局企画特集

管内37事務所の主要事業

**長島ダム管理所**  
川口 一彦 所長

**地域の安全・安心の確保に向けて**  
長島ダムは、一級河川大井川水系大井川の上流、静岡県根本町に2002年に建設された多目的ダムです。2002年の完成から21年が経過しましたが、近年の全国的な異常豪雨・渇水の頻発化などを踏まえ、治水・利水などに関わる地域の安全・安心の確保に向けた役割や期待はますます大きくなっています。  
本年度については、洪水時における関係機関などへの適切な情報提供、ならびに確実な防災操作を重点課題とし、利水ダムとも連携した事前放流やダム操作規則の見直しなど確実で有効なダム管理を行ってまいります。  
そのためにダム貯水池の堆砂掘削、ゲート・放流警報設備及び関連機械・電気設備などの保守点検・更新等を行い、ダムおよび貯水池の健全な状態の維持に努めてまいります。  
また、地域の資源「地域に開かれたダム」としても皆さまから親しまれるよう、継続的にダム堤体部の一般開放や湖岸面利用および周辺の整備などを推進してまいります。



**清水港湾事務所**  
滝川 尚樹 所長

**静岡・甲信地域を支える港づくり**  
清水港湾事務所は、静岡県の清水港、田子の浦港、御前崎港および下田港において、地域の持続的な経済成長や安全・安心の確保に資する港湾整備を進めています。  
本年度、清水港においては、コンテナ取扱機能強化にも資する、大型パルプ船に対応した新興岸壁の延伸工事を進めるとともに、日の出岸壁、富士見岸壁、袖師第一埠頭岸壁の老朽化対策等に取り組んでいます。  
田子の浦港では、港湾の安定利用のための航路保全対策を進め、御前崎港では、西ふ頭岸壁の老朽化対策等を進めます。  
また、大規模地震・津波に対応するため、清水港及び御前崎港において、防波堤の「粘り強い」を進めるとともに、下田港では、船舶の避難水域の確保や津波から市街地を守るための防波堤整備を推進します。  
アフターコロナを見据える今年は、管内の外国クルーズ船寄港数も過去最高となる見込みです。内陸地域との連携強化も含め、関係の皆様と協力し、「新時代」の静岡の港づくりに取り組んでまいります。

**浜松河川国道事務所**  
名久井 孝史 所長

**静岡県西部地域とともに進める河川・道路整備**  
浜松河川国道事務所は、地域における治水・道路事業を担当しています。皆様が安心して暮らせる社会の構築に向けて、本年度は以下の取組を進めてまいります。  
河川事業については、菊川においては本所地区の無堤部対策や高潮堤防整備及び河道掘削等を行います。  
また、天竜川においては上野部地区の低水護岸整備や河道掘削等を行うほか、ダム再編事業として工事用道路の整備、環境調査及び治水・堆砂対策施設の設定等を行うこと、さらなる治水安全度の向上を図ってまいります。  
道路事業については、三遠南信自動車道(東栄IC～鳳来IC)の2025年度開通に向けた工事を引き続き推進してまいります。国道1号については、島田金谷バイパスでは24年度の旗指IC～大代IC間の4車線化に向けた工事を行うこと、浜松バイパスでは地質調査や設計を推進し、早期開通を目指します。  
その他、河川・道路の適切な維持管理や災害情報のわかりやすい発信や被災自治体への技術支援協力等を通じて、地域社会の健全な成長と安全・安心に繋がる取組を進めてまいります。

**岐阜国道事務所**  
松實 崇博 所長

**地域を支える道路ネットワークを着実に整備**  
岐阜国道事務所は、東海環状自動車道及び岐阜県西南部6路線(国道21号、22号、41号、156号、158号、258号)を担当しています。  
東海環状自動車道は、2026年度の全線開通に向け、全力で工事を進めます。昨年年度事業着手した国道21号岐大バイパス岐阜市内立体は、現道の切り直し工事を推進します。  
国道156号岐阜東バイパスは、清水山トンネル工事に着手します。  
国道41号上麻生防災は、早期のトンネル工事着手に向け用地、工事を進めます。  
直轄権限代行事業として、濃飛横断自動車道の一部を構成する国道256号越味峠道路は、今年度新規事業化し、測量、設計を進めます。  
県道川島大橋の災害復旧については、令和4年8月に歩行者用仮橋が完成しました。新橋設置工事は、令和4年12月に着手しており、引き続き工事を推進します。  
県道川島大橋の災害復旧については、令和4年8月に歩行者用仮橋が完成しました。新橋設置工事は、令和4年12月に着手しており、引き続き工事を推進します。  
交通渋滞緩和や交通安全確保等に向け、地域の皆様のご協力を頂きながら、地域を支える道路ネットワークの着実な整備・管理を進めてまいります。

**多治見砂防国道事務所**  
森下 淳 所長

**東濃・木曽の安全安心と社会資本整備を推進**  
多治見砂防国道事務所は、庄内川、木曾川水系の砂防事業および国道19号、21号の道路事業を実施しています。砂防事業では、地域の安全・安心を確保し、命と暮らしを守る土砂災害対策の推進、また地域との共栄のため里山砂防を行っています。  
木曾川水系では、中津川市のアラクラ沢砂防堰堤や、南木曾町の桂川第1砂防堰堤などを、庄内川水系では、多治見市の寺下第3砂防堰堤改築等の整備を進めていきます。  
道路事業では、国道19号瑞浪恵那道路において、用地買収や改良工事等を推進するとともに、昨年度着工式を実施した恵那区においては、新たに橋梁下部工事に着手する予定です。また、歩道整備や交差点改良等の交通安全対策も実施してまいります。  
岐阜県東濃地域の道路ネットワークを支える国道19号、21号が安全・安心に通行できるように、道路施設の点検、補修を実施するとともに、豪雨や降雪等に対しても、関係機関と連携し、迅速な管理体制の確保に努めてまいります。  
今後も、地域の発展のため社会資本整備を効率的に進めてまいります。

**静岡営繕事務所**  
松島 祥郎 所長

**既存施設の津波対策と長寿命化改修の推進**  
静岡営繕事務所は、静岡県に所在する国家機関の官庁施設について、施設整備や庁舎の保全指導を実施しています。  
本年度は、防災拠点となる施設の津波対策として御前崎港湾合同庁舎の津波対策工事を実施するほか、下田運輸総合庁舎の外壁・建具改修工事を実施するなど長寿命化改修工事を実施してまいります。  
また、静岡地方合同庁舎・静岡法務総合庁舎の耐震改修工事が本格化してまいります。  
工事の施工に当たっては、生産性向上技術の活用拡大により現場業務の効率化をさらに進めるとともに、現場閉鎖による週休2日の実施に取り組み、受・発注者双方の働き方改革を実現してまいります。  
保全指導としては、施設管理者に官庁施設情報管理システムへ保全情報入力へのサポートを実施し、その情報を基に施設の問題点やニーズを把握して改修に繋げてまいります。  
また、当事務所に設置している公共建築相談窓口を通じて地方公共団体への技術的支援にも取り組んでまいります。

**静岡河川事務所**  
阿部 聡 所長

**静岡中部の暮らしを守り地域の発展を支える事業を展開**  
静岡河川事務所は、安倍川・大井川の河川整備をはじめ、維持管理、環境整備及び安倍川上流部の土砂災害対策、駿河湾沿岸の駿河海岸及び富士海岸(蒲原工区)の海岸保全施設の整備を担当しています。安倍川水系、大井川水系流域治水プロジェクトを推進して参ります。  
本年度は、安倍川では河道掘削、堤防整備及び令和4年9月に発生した台風15号による支川葦科川の護岸損傷の復旧を実施します。大井川では河道掘削及び蓬萊橋周辺の「かわまちづくり計画」と連携した整備を実施します。  
安倍川上流部の土砂災害対策では日本三大崩れの一つ「大谷崩」で山腹工を行うとともに、静岡市有東木地区で砂防施設整備を実施します。  
駿河海岸及び富士海岸(蒲原工区)では、高潮対策として有脚式離岸堤等の海岸保全施設を整備を実施します。また、巨大地震による大規模津波に備えるため、海岸堤防の「粘り強い」構造、への改良を推進してまいります。  
引き続き、ハード対策のみならず、地元自治体の皆様と連携し、一人一人の防災意識の向上を図る水防教育などのソフト対策にも力を入れて参ります。

**高山国道事務所**  
東 佑亮 所長

**飛騨地域の安全・安心な通行の確保**  
高山国道事務所は、全国有数の観光資源を持ち多くの観光客が訪れる岐阜県飛騨地域内の重要な路線として、中部縦貫自動車道及び国道41号の改築事業及び延長約15.0kmの道路管理を担当します。  
改築事業では中部縦貫自動車道の高山清見道路にてトンネル工事・改良工事・橋梁工事を推進しつつ、昨年度に計画段階評価手続きを終了した「平湯～日面」区間にてルートと構造に関する詳細検討を実施します。  
国道41号改築事業では、屏風岩改良での橋梁下部工事、門原防壁でのトンネル工事、船津割石防壁での橋梁下部工事など推進すると共に、石川バイパスの用地買収を推進します。  
道路管理面では厳しい地形状況や気象条件のなか4カ所の事前通行規制区間を抱えておりますが、落石や道路流出の恐れのある箇所での防災・減災事業を進めつつ、橋梁やトンネルなどの補修事業、交差点改良や登坂車線整備などの交通安全事業、電線共同溝事業を推進します。  
「魅力・活力あふれる安心・安全な飛騨地域の実現」に向けて、引き続き着実に事業を推進してまいります。

**木曾川上流河川事務所**  
板垣 修 所長

**安全安心で豊かな木曾三川の構築に向け**  
木曾川上流河川事務所では、木曾川中流部の河川改修、維持管理、環境整備、国営木曾三川公園の整備・管理を行っています。  
本年度は、特殊堤防や排水樋門の改築、河道掘削、護岸整備をはじめ、全川にわたり、様々な河川改修を進めるとともに、引き続き特定構造物改築事業として水門川掛水機場の老朽化対策、堤防強化に取り組んでまいります。また長良川遊水地については、地域と連携を図りながら、早期着手に向け、鋭意検討・調整を進めてまいります。さらに、顕在化している河道の二極化(砂洲上の樹木繁茂等による滞り河床の極度の深掘れ等)の対策を進めます。  
環境整備としては、にぎわいのある水辺空間の創出に資する「きふ長良川鶴岡かわまちづくり事業」を推進するとともに、イタセンパラの生息環境の保全に向けた整備を推進してまいります。  
国営木曾三川公園においては、桜堤サブセンター堤内地下エリアの基礎整備を進めるなどの整備と維持管理を行っています。  
激甚な水害が全国で頻発するなか、河川管理者として治水施設の整備を引き続き推進するとともに、地域の自治体等と連携して水害リスクの低減を図る「流域治水」を推進してまいります。

**庄内川河川事務所**  
蘆屋 秀幸 所長

**流域治水の推進と豊かで活力ある地域づくり**  
庄内川河川事務所は、土岐川・庄内川の河川改修、維持管理、環境整備、小里川ダムの管理を行っています。  
近年は東海豪雨を上回る規模の洪水が全国各地で発生しており、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者と協働して行う流域治水を確実に推進しています。  
庄内川では、流域治水協議会を全国に先駆け設立し、これまでに関係者と11回の協議を重ね、実施状況のフォローアップなどを共有し取り組みを確実に進めています。当事務所では、狭窄部対策として県道枇杷島橋の架け替えや堤防整備などを推進させてまいります。  
豊かで活力ある地域づくりとして、多治見市豊岡地区上流部の水辺整備を市と連携を図り散策路や多目的広場の整備に着手し、環境学習やマルシェなど賑わいのある地域づくりを推進します。  
小里川ダムは、年間約5万人が訪れる人気スポットであり、ダム完成後20年を迎えるにあたり地域と連携した記念イベントを開催するなど、地域を支えるダム管理に一層努めてまいります。

**富士砂防事務所**  
光永 健男 所長

**富士山麓と東西交通の大動脈を守る**  
2021年7月に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害を受けて着手した「逢初川西側砂防災害関連緊急事業」は2023年3月に伊豆山砂防堰堤の完成を迎えて完了し、熱海緊急砂防出張所も閉所しました。  
本年度は、従来から当事務所が実施していた、静岡県と山梨県にまたがる富士山麓における火山砂防事業と日本の大動脈であるJR東海東海道線、国道1号、東名高速道路が集中する静岡市の由比地区における地すべり対策事業を実施します。  
富士山南西麓では、引き続き、富士山源頭部の大沢崩れでは渓床の保護を図るとともに、風祭川などで遊砂地工を、揚久保などで砂防堰堤工を実施します。また、いざという時のためにコンクリートブロックなどの資材を備蓄しておくためのストックヤードの用地取得にも取り組みます。北麓では、浅間沢で遊砂地工を、宮川で既設堰堤の補強工事を継続します。由比地区の地すべり対策工事は深礎杭と集水ボーリングを継続します。  
皆様には、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

**木曾川水系ダム統合管理事務所**  
稲垣 良和 所長

**ダムの統合管理で地域の安全・安心に貢献**  
木曾川水系ダム統合管理事務所では、直轄ダムの丸山ダム、横山ダムのほか、独立行政法人水資源機構が管理する岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、徳山ダムを含めた6つのダムにおいて、洪水調節や利水供給等をより効率的に行う「ダム統合管理」を実施しています。  
また、既存ダムの洪水調節機能強化に向けた取り組みとして2020年5月に締結された「木曾川水系治水協定」に基づいた事前放流について、関係機関と連携して進めています。  
本年度は、土砂災害等により操作員がダム管理支所へ参集が不可能な場合などにも臨機に対処するため、管理支所ではなく、ダムから離れた場所からの遠隔操作実施に向けた試行を横山ダムにて行ってまいります。  
再生エネルギーの活用促進の一環として、横山ダムでは洪水後期放流の工夫など発電量の増電を可能とする試行を22年から始めており、引き続き治水に支障の無い範囲で活用を図ってまいります。  
今後も引き続き地域の安全・安心のため、6ダムの統合管理や治水協定に基づく事前放流等の取り組みを関係機関と連携して実施してまいります。

**越美山系砂防事務所**  
富田 直樹 所長

**安全で安心な暮らしを守る**  
越美山系砂防事務所は、岐阜県西濃地域の指斐川及び根尾川流域(本巣市及び指斐川町)で砂防事業を実施しています。  
事業区域は、多雨・豪雪地域で急峻な地形、脆弱な地質に加え、国内最大級の大陸地震である濃尾地震の際に活動した根尾谷断層をはじめとする幾つもの活断層が存在しています。  
このような厳しい自然条件下にあることから、過去から土砂災害が幾度も発生しています。土砂災害から人命・財産を守るため、本年度は、指斐川流域では、大谷川第3砂防堰堤等の整備を推進するとともに、機能向上を図るナンノ谷砂防堰堤2号改築に着手します。  
根尾川流域では、ガラソ谷第1砂防堰堤等の整備を継続し、天神堂谷第2砂防堰堤の整備に着手するなど、着実に事業を推進してまいります。なお、事業実施にあたっては、衛星モニタリングを活用した遠隔監視やICT施工を導入して生産性を向上を図ります。  
土砂災害に備えた取り組みとして、大規模土砂災害が発生した場合を想定し、20機関と合同防災訓練を今年5月に実施しました。また、災害時に地域の皆様を被災しないよう自発的な防災活動や自治体の地区防災計画の策定を支援し、地域防災力の向上に取り組んでいます。

**豊橋河川事務所**  
伊藤 敏弘 所長

**流域治水によるあらゆる関係者との協働**  
豊橋河川事務所は、豊川および矢作川の河川改修、維持管理、環境整備等を担当しています。  
豊川では、霞地区の浸水被害軽減を図るため、賀茂地区の樋管整備に着手するとともに、引き続き、築堤用地の取得等を実施します。出水時には、国・県・市の関係機関や住民などにより、豊川霞地区浸水被害軽減対策計画によるタイムラインに基づいた対応を行います。  
矢作川では、洪水を安全に流下させるため、中流部の堤防整備や狭窄部である鶴の首地区の河道掘削、矢作ダムの治水機能の向上のため矢作ダム再生事業の実施計画調査を行います。  
また、気候変動の影響や社会状況の変化を踏まえ、流域のあらゆる関係者と協働して取り組む流域治水プロジェクトを推進してまいります。  
三河地域の発展と安全安心なまちづくりを支えるため、また親しみを持たれ愛される河川環境の構築のため、流域のあらゆる関係者と協働し治水事業の推進、行事を想定したデジタルツールも活用した危機管理の取り組みを進めてまいりますので、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

**静岡国道事務所**  
柳野 和也 所長

**静岡県中部の道路ネットワーク強化**  
静岡国道事務所は、静岡県中部地域の国道1号、52号、139号の3路線、約149kmの改築・管理を担当しています。  
静岡県の軸となる東西軸、ラダー状に繋ぐ南北軸、これらの平常時・災害時を問わない道路ネットワークの形成・強化を図るとともに、道の駅、スマートIC等の活用による地域の賑わいが重要と考え、取り組みを進めてまいります。  
東西軸となる国道1号では、清水港と東名・新東名、中部横断道をつなぐ静岡バイパス清水立体において上部工架設等を全面的に実施し、令和8年春頃に上り線(東京方面)が開通予定です。  
藤枝バイパス(4車線化)では潮トンネルの掘削及び潮高築橋上部工の架設を実施しています。国道139号富士改良は、藤原跨線橋の上部工を製作中です。  
メンテナンスサイクルに基づく橋梁補修、防災対策、交通安全対策の工事のほか、南海トラフ巨大地震時の啓発ルートである「くしの歯ルート」を想定した実効性の高い訓練等を実施します。  
地域の声に耳を傾けながら、地域の発展、安全・安心を支えられるよう、地域と事務所が一体となって取り組んでまいります。

**沼津河川国道事務所**  
渡部 正一 所長

**治水事業と道路事業を活かした地域活性化**  
沼津河川国道事務所は、静岡県東部・伊豆地域における、治水及び道路事業を担当しています。  
治水事業では、気候変動を踏まえた狩野川の河川基本方針の改定に向け、関係機関・県市町と密に調整し、鋭意進めているところです。引き続き、流域における外水・内水被害を軽減させるため、国においては築堤護岸等を実施して参ります。また、柿田川の自然再生や神島地区かわまちづくりの支援を行います。  
狩野川上流域では、地域の安全・安心のため砂防設備の整備を行うとともに、富士海岸においては、養浜などの海岸保全を実施して参ります。  
道路事業では、本年3月19日に伊豆縦貫道の河津七滝IC～河津逆川IC間3.0kmが開通した他、天城峠道路(月ヶ瀬～茅野)5.7kmが本年度に新規事業化されたところであり、引き続き、整備を進めて参ります。また、県東部の主要幹線道路である国道1号・138号・246号の維持管理を適切に行うとともに、トンネルや橋梁等のメンテナンスのほか、主要な直轄国道での交通安全対策や道路空間整備を推進します。  
引き続き、関係自治体と緊密に連携を図りながら、事務所一丸となって取り組んで参ります。

**新丸山ダム工事事務所**  
加納 啓司 所長

**次世代型ダム建設事業をDXで推進**  
新丸山ダム工事事務所は、既設丸山ダムの下流47.5mの位置に約20m嵩上げを行い、諏訪湖の貯水量の約2倍に相当する1億3000万m<sup>3</sup>の総貯水容量を確保し、洪水調節機能の強化、流水の正常な機能の維持、発電の増強を図り、より安全で快適な暮らしを支えるダム再生事業に取り組んでいます。  
本年度は、ダム本体の基礎掘削や放流ゲートの製作等を継続して進めます。また、道路整備では代替国道418号の橋梁下部工や道路拡幅工事を安全に進めます。  
今後のコンクリート打設では、既設丸山ダムの洪水調節機能を維持しながらの工事であるため難易度は高く、高い技術力とDXの推進により「自律型コンクリート打設システム」にチャレンジし、建設現場の生産性向上を目指します。  
また、ダム周辺における自然・文化・伝統などの地域資源と新丸山ダム建設事業による基礎整備を上手く活用し、地域の満足度を継続的に高める効果的な施策を「魅力をつなぐプロジェクト」と位置付け、関係自治体としてタッグを組んで取り組んでまいります。

国土交通省 中部地方整備局企画特集

管内37事務所の主要事業

**四日市港湾事務所**  
堀池 昌生所長

**地域の基幹産業を支え、強靱な国土づくりを推進**

四日市港湾事務所は、地域の基幹産業を支える四日市港の港湾整備と大規模自然災害等への安全・安心の確保に向けた津松阪海岸の海岸整備を実施しています。

四日市港では、近年、東南アジア航路のコンテナ貨物の増加や船舶の大型化の進展に対応するため、令和3年度より船艀浦北ふ頭地区に水深14mの耐震強化岸壁の整備に着手しました。これにより、北ふ頭地区にコンテナ機能の集約化を図るとともに港全体の効率的な港湾物流機能の向上に取り組んでいます。

また、国有港湾施設の予防保全、機能強化に取組み、大規模自然災害等からサブプライチェーンを支える港湾機能の強化にも努めています。

津松阪海岸では、津地区栗真工区、阿漕浦、御殿場工区の延長4.7kmを対象に海岸保全施設の改良に取り組んでおり、令和5年度の完成を目指して各工区の工事を進めています。

引き続き、三重県内をはじめ中部の基幹産業を支え、地域の安全・安心の確保に取り組んでまいります。

**三重河川国道事務所**  
菅 良一所長

**三重の地域経済を支え、安全・安心を確保する**

三重河川国道事務所は三重県内北中部の河川4水系、道路4路線を担当しています。

河川事業では、水害の激甚化・頻発化に備え、特定都市河川指定を行った雲出川水系の各流域を始め三重四川川において、「流域治水プロジェクト」に基づき堤防整備や河道掘削等のハード対策を進めるとともに、土地利用規制や浸水センサーを用いた防災情報の提供等、ハード・ソフト一体となった対策を県・市町等と連携し推進します。

道路事業では、中勢道路4工区について今年度の開通に向け工事を進捗するとともに、大里窪田交差点区間において、交差点立体化工事に着手します。鈴鹿四日市道路は調査設計を進めています。

近鉄四日市駅交通ターミナル整備事業を推進し、駅周辺における人流・物流の円滑化や地域の活性化を促進します。国道1号・23号では、交差点改良等による交通安全対策や電線共同溝事業を進めるとともに、橋梁・道路施設の耐震対策、維持修繕、点検等を行います。

引き続き、事務所職員が明るく前向きに一丸となって、豊かで安全・安心な地域づくりを進めてまいります。

**名古屋港湾事務所**  
白井 正興所長

**中部のものづくり産業を支える港湾整備を推進**

名古屋港は、日本の基幹産業である自動車関連産業をはじめとした中部のものづくり産業を支える物流拠点としての役割を担っており、総取扱貨物量、輸出額、貿易黒字額、自動車輸出台数のいずれも全国第一位の港湾です。

現在、飛鳥ふ頭では、東南アジア航路のコンテナ貨物量の増加や船舶の大型化及び大規模地震に対応するため、水深12mの岸壁を水深15mの耐震強化岸壁に改良しており、2022年10月に1バースの供用を開始しました。引き続き、隣接する2バース目の工事を進めていきます。

また、中部国際空港沖に計画している名古屋港新土砂処分場は22年2月に埋立護岸の基礎工に着手しました。本年度は本体工にも着手し、新たな土砂処分場の早期確保に向けて、環境に配慮した新工事を推進します。

このほか、海洋環境整備船を用いた浮遊ごみ等の回収も取り組んでいます。

引き続き、愛知県内をはじめとする、中部のものづくり産業の生産性・成長力向上に、暮らしやすい地域づくりを支えるべく港湾整備を進めて参ります。

**設楽ダム工事事務所**  
田中 康寛所長

**東三河地域の豊かな生活と経済を支える**

設楽ダム建設事業は、頻発する洪水や渇水の被害に対して、東三河地域の安全・安心を高め、豊かな生活と経済活動を支える多目的ダム建設事業です。

昨年8月には設楽ダムの建設に関する基本計画を変更し、事業費を3200億円、工期を34年度としました。また、23年2月には本体工事に着手するための本流を迂回させる転流を開始しました。本年度は、ダム本体1期工事に着手するとともに、国道257号、県道瀬戸設楽線、県道設楽根羽線などの付替道路の橋梁やトンネル、その他路線の進捗を図ってまいります。

また、水源地域である設楽町が下流域とともに豊かな地域となるように、設楽町を始めとする東三河地域の自治体等と連携し、設楽ダムを活用した水源地域振興の取り組みを進めてまいります。

今後も設楽ダム工事事務所では、水源地域ならびに下流域の皆様のご期待と信頼にお応えできるように東三河地域のより豊かな生活と経済活動を支えるダムづくりを目指し、森・水・人が繋がる事業として職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。

**天竜川上流河川事務所**  
吉田 桂治所長

**伊那地域の飛躍を支える治水行政**

八ヶ岳連峰、中央・南アルプスに囲まれた天竜川上流域は、豊かな自然環境・美しい景観に恵まれた地域ですが、一方で急峻な地形と脆弱な地質が相まって、多くの洪水や土砂災害に見舞われてきました。

大規模な水害と土砂災害の複合災害となった1961(昭和36)年6月の「三六災害」から60年が経過しましたが、一昨年も岡谷市で土石流災害により亡くなる方が出るなど、災害への備えが常に必要な地域です。

今後の気候変動を考えると、地域を守るためには建設業界の皆さまのご協力だけでなく、流域のあらゆる関係者が協働して行う「天竜川上流 流域治水プロジェクト」への期待が高まっています。

このような機運の折、平時の地域活性化、災害時の水防活動の拠点となるMIZBEステーションが管内でも登録されました。三遠南信自動車道やリニア中央新幹線等の事業も進捗しており、引き続き、これらの事業と連携して、地域の持続的な発展と安全・安心の向上につながる河川・砂防・地すべり対策事業を着実に推進してまいります。

**木曾川下流河川事務所**  
大坪 祐紀所長

**濃尾平野の安心安全と地域活性化に向けて**

木曾川下流域は、我が国最大の海拔ゼロメートル地帯が広がり、洪水や高潮により壊滅的な被害が発生するおそれがあります。このため、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水プロジェクト」を推進しています。

木曾三川の河口部では南海トラフ地震に備え堤防の耐震対策を加速し、木曾川では愛西市の防災ステーション整備に着手します。揖斐川では深谷地区の橋管改築や、支川の鮎江川川堤防整備などを行うとともに、干潟やヨシ原など多様な環境の再生や、桑名市では河川空間のオープン化に取り組んでいます。

また、国営木曾三川公園では老朽化した施設の更新、各拠点の整備と利用促進を進め、特にアクアワールド水郷パークセンターでは、追加エリアの開園を予定しています。

さらに、こうした事業の推進において、効率化・高度化のため「デジタル変革(DX)」を積極的に取り組んでまいります。

地域の皆様、建設業界の皆様と、安全・安心、暮らしと経済を支える社会資本整備を進めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

**三河港湾事務所**  
東野 隆之所長

**地域の産業を支える港湾整備を推進**

三河港湾事務所は、中部のものづくり産業を支える強靱な港湾を目指し、三河港・衣浦港の整備と中山水道航路の管理保全を実施しています。

三河港は、完成自動車の輸出台数・金額ともに30年連続全国一位の港湾で、自動車輸出入拠点として重要な役割を担っています。

中部地域の基幹産業を支えるべく、神野地区において、安全な港湾荷役の実現に向け、防波堤(北)の整備を行うとともに、老朽化が見られる水深10m岸壁の改良を行い、港湾施設の継続的な機能確保に取り組んでいます。

また、衣浦港では、製紙用の木材チップや鉄スクラップ等のバルク貨物が多く取り扱われ、地域の経済活動や生活基盤を支えています。

これら貨物を取り扱う港湾施設の老朽化に対応すべく、中央ふ頭西地区の水深12m岸壁及び外港地区の西防波堤の改良を引き続き進めるとともに、船舶の大型化に対応するため、既設防波堤の一部を撤去し航路の拡幅を行います。

今後も、地域の基幹産業を支えるべく、強靱な港づくりに取り組んでまいります。

**名古屋国道事務所**  
望月 拓郎所長

**安全・安心を守る魅力的なまちづくり**

名古屋国道事務所は、愛知県内の国道1号、19号、22号、23号、41号、153号、155号及び302号の8路線(管理延長436.7km)を管理し、大規模災害への対応や良質な道路利用環境を提供することで、道路利用者への安全で快適な道路サービスを提供することを目的に事業を展開しています。

本年度は、改築事業として、国道1号熱田伝馬橋の老朽化対策・耐震性強化を目的とする架替事業、伊勢神トンネル(仮称)の掘削工事、国道23号名古屋南部地区における環境整備事業を推進するほか、維持・修繕事業として、点検結果を踏まえた計画的な補修による老朽化対策、防災対策として、302号新平田橋等における橋梁の耐震補強や共同溝対策、無電柱化として7箇所計27.4kmにおける電線共同溝整備事業を推進します。

また、交通安全対策として、名古屋・豊田市内における自転車通行空間の整備、岡崎地区等の歩道整備、国道19号枝通の歩道空間整備等を進めます。

今後とも、地域や道路利用者の方々に安全・安心にご利用いただき地域の生活を豊かにする魅力ある道づくりに取り組んでまいります。

**三峰川総合開発工事事務所**  
岩田 伸隆所長

**伊那谷の持続的発展に向けて**

三峰川総合開発工事事務所は、天竜川の最大支川三峰川に建設された美和ダムにおいて、洪水調節機能の強化と保全を目的としたダム再生事業に取り組んでいます。

洪水調節機能の強化では、これまでにダム貯水池に堆積した約200万m<sup>3</sup>の土砂を掘削するとともに、利水容量(発電)の280万m<sup>3</sup>の水容量に振り替えることにより、これまでの洪水調節容量1340万m<sup>3</sup>から約1.2倍となる1620万m<sup>3</sup>に増強しました。

一方、洪水調節機能の保全対策として、ダム湖に流入する土砂量を減らすための土砂バイパス施設(土砂バイパストンネル、分派堰、排砂ダム)およびダム湖に流入した土砂を液状して効果的に下流へ流すためのストックヤード施設(取水ゲート、ストックヤード、排砂ゲート等)を整備しました。土砂バイパス施設は2005年に完成し、本格運用を開始しています。

年内初となるストックヤード施設は2021年度に施設は完成し、2022年度は完成式典を開催しました。本年度も本格運用に向け試験運用、モニタリング等をしっかりとやっています。

三峰川総合開発工事事務所では、伊那谷の安全・安心を支えるため、美和ダム再生事業の本年度に向け、引き続き取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

**紀勢国道事務所**  
市川 幸治所長

**「命の道」を「地域の活力」へ**

紀勢国道事務所では、豊かな自然を有し、魅力的な観光資源が凝縮している、三重県中勢及び東紀州地域の道路事業を担っています。

改築事業では、熊野尾鷲道路が2021年8月に全線開通となり、名古屋都市圏から三重県熊野市まで連続した高規格道路ネットワークで結ばれました。

熊野道路では、改良工、橋梁下部工事、トンネル工事を進めています。紀勢熊野道路では測量と調査設計、用地幅杭設置、用地買収を推進します。松阪多気バイパスでは、松阪市朝田町の交差点立体化に向けた橋梁上部工事、橋梁下部工事を進めています。

交通安全事業では、歩行者の安全確保に向けた歩道整備のほか、ナショナルサイクルルートに指定された太平洋沿岸自転車道の整備、道の駅の空間整備等を進めます。維持修繕事業では、国土強靱化に向けた法面の防災対策や道路インフラの適正な維持管理を行います。

「命の道」を「地域の活力」へ、紀勢の道がもっと安全・安心で、暮らしや地域産業を支え、もっと多くの皆様に親しんでもらえるよう、取り組んでまいります。

**中部技術事務所**  
野々村 武文所長

**インフラDXを活用し 働き方改革・人材育成を**

中部技術事務所は、「危機管理・防災」「DX・技術情報」「インフラマネジメント」「河川環境」「人材育成」を取り組みの柱として位置づけ、インフラ分野のDX推進や維持管理技術の開発、i-Constructionの導入支援、災害対策用機械による支援などにより、中部地方の安全・安心の確保と魅力ある建設現場づくりを推進します。

建設業の抜本的な生産性向上に不可欠なインフラ分野におけるDXを推進するため、開設3年目となる「中部インフラDXセンター」を拠点とした情報発信や最新技術の体験にも引き続き取り組みます。

また、最新技術をいつでも体験できるエリアの常時展示や、企業における取り組みを紹介する「企業出展ブース」の開設など、施設のより一層の充実・強化を図るとともに、研修や講義などを通じ、中部地整や自治体の職員、設計・施工者等を対象として、インフラ分野の高度化、多様化する課題に対応するためのデジタル技術を活用できる人材の育成にも積極的に取り組んでいきます。

**愛知国道事務所**  
平井 親一所長

**地域交流を支えるネットワーク整備**

愛知国道事務所は、名古屋環状2号線(名古屋西～飛鳥)、国道41号・302号・247号の4路線約76kmと国道302号の共同溝約24kmの整備、国道41号名濃バイパス・302号西南部の電線共同溝整備(無電柱化)を担当しています。

国道302号は、暫定2車線区間の4車線化に向けて工事・調査設計等を推進します。西南部は4車線化工事、東北部は名鉄瀬戸線の立体化及び庄内川渡河部の橋梁上部工事や改良工事、西部は鉄道交差点等の調査設計及び関係機関との調整を推進します。

国道41号名濃バイパスは、大山市五郎丸までの6車線化を2023年度の開通に向け工事を進めます。国道247号西知多道路(東海JCT)は、改良及び橋梁下部工事等を推進します。名古屋環状2号線の専用部は、21年5月1日に全線開通し、名古屋西～飛鳥間の事業損失調査等を推進します。

名岐道路は、都市計画・環境アセスメントを進めるための調査を推進します。宮西港道路は、概略ルート・構造の検討(計画段階評価を進めるための調査)について、昨年度開催された第1回中部地方小委員会での審議を踏まえながら、引き続き調査を推進します。

引き続き、尾張地域の人・もの・情報の交流を支える道づくりに取り組んでまいります。

**飯田国道事務所**  
大口 鉄雄所長

**南信州地域で推進する道路事業に新たな展開**

飯田国道事務所は、三遠南信自動車道、国道19号、国道153号の整備・維持管理を担当しています。

本年度より、国道153号伊勢駒南バイパス事業に着手します。飯田市竹佐地区から北方地区までの国道153号における通勤時間帯を中心とした渋滞や追突事故、狭小な歩道といった課題を解消すべく、4.5kmのバイパスを整備します。本年度は測量及び地質調査を行う予定です。

工事が本格化している三遠南信自動車道飯島橋道路では、橋梁上部工事、トンネル工事、道路改良工事を推進します。三遠南信自動車道青崩峠道路では、延長約5.5kmのトンネル明かり部の改良工事を継続します。

国道19号飯原改良では、橋梁上部工事、道路改良工事を推進します。国道153号伊勢駒南バイパスロードでは、用地調査に着手する予定です。その他、交通安全対策事業、橋梁・トンネル等のメンテナンス事業についても継続的に進めます。

南信州地域では、リニア中央新幹線の関連工事も始まり、当地域における高速交通網の整備・充実、安全・安心の実現のため、積極的に事業を推進してまいります。

**北勢国道事務所**  
長谷川 裕修所長

**北勢・伊賀地域の更なる発展に向けて**

北勢国道事務所は、国道1号名東東部区間・北勢バイパス・関バイパス、国道475号東海環状自動車道の整備、及び国道25号名取区間(亀山IC<三重県>～針IC<奈良県>)の交通安全対策、維持管理等を担当しています。

このうち、国道475号東海環状自動車道の北勢IC(仮称)～大入IC間は、2024年度、泉境～北勢IC(仮称)間は、26年度※1の開通を目指し橋梁工事・改良工事を進めています。

また、国道1号北勢バイパスの(市)日永八郷線～国道477号B P間は、24年度※2の開通に向けトンネル工事・橋梁工事・改良工事を進捗するとともに、国道477号B P～四日市采女町(国道1号)間は、地元協議を実施しながら、調査・設計を推進してまいります。さらに、国道1号名東東部区間においても、橋梁下部工事・改良工事を進捗し、本年度より橋梁上部工事に着手します。

引き続き、北勢・伊賀地域の道路整備を通して、「活力ある社会」「ストック効果の最大化」「安全・安心」を実現してまいります。

※1 用地取得等が順調な場合 ※2 トンネル工事が順調に進んだ場合

**中部道路メンテナンスセンター**  
吉川 昌宏センター長

**地域の暮らしを守る 「道路メンテナンス」を推進**

中部道路メンテナンスセンターは、開所5年目を迎え、引き続き、急速に老朽化する道路構造物の保全対策を強化すべく戦略的・効率的なメンテナンスサイクルを構築する取り組みを推進します。

具体的には、これまで収集した定期点検データを分析した知見から、大規模な修繕になる「事後保全型」から、損傷が軽いうちに補修を行うことでライフサイクルコストの低減が可能な「予防保全型」への転換や、新技術の活用を推進し効率的な道路メンテナンスに向けて道路管理者への支援を展開します。

地方公共団体には、道路のメンテナンスに関する技術相談を行うほか、点検・診断および補修方法等の研修会を開催し、技術力習得のための支援を行います。

そのほか、一般の方々を対象に、構造物の老朽化状況やメンテナンスの重要性を知っていただくための広報活動も推進してまいります。

困った時に、「聞けばなんとなか」と信頼されるセンターを目指し、職員一丸となって、道路のメンテナンス事業に取り組んでまいります。

**名四国道事務所**  
鈴木 克章所長

**三河・知多地域の未来を創るまちづくり**

名四国道事務所は、国道23号名豊道路、国道153号豊田西・北バイパス、国道155号豊田南バイパス、国道247号西知多道路(長浦～日長)の整備、浜松湖西豊橋道路の調査を担当しています。

名豊道路は、2024年度の本線暫定2車線開通に向けて、残る未開通区間である蒲部バイパスの豊田川がIC間では、改良工事、橋梁上部工事、トンネル改良工事や舗装工事を推進します。

豊橋バイパスの野依IC～大崎IC間は、橋梁下部工事を進め、本年度より橋梁上部工事に着手します。岡崎バイパスの幸田芦谷IC～西尾東IC間では、調査設計や用地取得を推進します。

豊田北バイパス・豊田南バイパスでは、用地取得、改良工事や橋梁上下部工事を推進します。

西知多道路(長浦～日長)は、調査設計を進め、本年度より用地取得に着手します。浜松湖西豊橋道路では、都市計画・環境アセスメントを進めるための調査を進めてまいります。

引き続き、三河地域の知多地域周辺における主要幹線道路の交通混雑緩和と通過交通の円滑化を図るとともに、地域の物流効率化に資するまちづくりに取り組んでまいります。

**天竜川ダム統合管理事務所**  
尾畑 伸之所長

**伊那谷地域の安全・安心と発展に向けて**

天竜川ダム統合管理事務所は、長野県南部を流下する天竜川の上流域に建設された美和ダムと小沢ダムの管理を行っています。両ダムとも洪水調節・発電・かんがい用水の供給をするための多目的ダムで、伊那谷地域の治水・利水の要となり、安全・安心と地域の発展に大きく寄与しています。

また、両ダムともダム上流域からの土砂流入量が非常に多いため、堆砂対策としてそれぞれバイパストンネルを有しており、関連する施設とともに試験運用を行い効率的、効果的な操作方法等を検討するとともに、これらの施設を含めた適切な防災操作を行い、下流河川への水位低減効果の発揮や、ダム貯水池への流入土砂の抑制対策を実施しています。

天竜川ダム統合管理事務所では、伊那谷の安全・安心の確保、人々の暮らしを支えるために、今後とも治水管理・貯水池管理・施設管理・水環境管理を適切に行って参ります。特に、小沢ダムにおいては、本年度より「ハイブリッドダム」の取組として運用高度化による増電の取組について試行を実施するなど地域に有効活用頂けるような工夫や、ダムの魅力発信等を通じて地域に貢献できるよう取り組んで参ります。

**蓮ダム管理所**  
堀江 幸生所長

**流域の安全安心を支えるダム管理に向けて**

蓮ダムは三重県中部を東西に流れる榑田川水系蓮川に、洪水調節・水道・発電・流水の正常な機能の維持を目的として建設された、多目的ダムです。

蓮ダムの流域は、日本有数の多雨地帯である大台ヶ原に隣接しており、これまで大雨や台風の際に洪水調節を図り榑田川流域の安全・安心の確保に寄与してきました。

本年度についても、洪水時における関係機関等への情報提供ならびに、防災操作や事前放流等適切なダム管理に努めていきたいと思ひます。

そのため、ダム放流、警報設備等の保守点検・更新を進めると共に、貯水池法面の補修、ダム堆砂土砂の排除等を実施し、ダム及び貯水池を健全な状態での維持に努めていきます。

また、カーボンニュートラルに向けた取り組みを加速させるため、ダムの運用高度化による増電の取組の試行も進めてまいります。

その他、地域の方々と連携した小・中学校での防災授業や、下流域の避難計画策定支援等に取り組む、地域の防災意識や防災力の向上等、流域の方々の期待に応え、安全安心を支えられるようなダム管理に取り組んでまいります。

**名古屋港湾空港技術調査事務所**  
近藤 達男所長

**中部地域の海のシンクタンクとして**

名古屋港湾空港技術調査事務所は、中部地域における港湾、海岸の施設設計をはじめ、施設の長寿命化、先端技術の活用による災害対応、伊勢湾の環境改善など多岐にわたる業務を行っています。

施設設計では、コスト削減を意識しつつ施工性や維持管理、また環境にも配慮した検討に取り組んでおり、本年度より設計検討に用いる実験水槽の大規模な更新を行う計画です。

災害対応力の強化として、大規模地震時の緊急物資受け入れなど利用可能な岸壁の迅速な判断を支援するため、港湾施設被害診断システムを構築し運用していますが、今年度よりシステムのクラウド化を進め、更なる確実なシステム運用が可能となるよう改善を進めます。

また、伊勢湾の環境改善に向け水質などの環境データの24時間連続観測を行い、その結果をリアルタイムで公表すると関係機関に活用頂いています。

本年度も中部地域の海のシンクタンクとして、設計、防災、環境に関する技術的課題解決に向け、地域と連携を図りつつ信頼されるパートナーとして職員一丸となって取り組んでまいります。

**矢作ダム管理所**  
角田 隆司所長

**地域の安全安心のためのダム管理を目指して**

矢作ダムは1971年に完成した治水・利水を目的とした多目的ダムです。これまで、水害に対する備えとして地域の安全・安心の確保と、西三河地域の産業発展を支える役割を担って参りました。

近年全国的に洪水や渇水が気候変動の影響により激甚化・頻発化しており、これらに備え、常にダム施設の適切な維持管理を行うとともに、確実な防災操作のための訓練・情報共有などに努めています。

2000年に発生した東海(恵那)豪雨から20年以上が経過していますが、当時の経験を教訓として、堆積土砂対策について、より良い方策を模索すべく、ダム下流域の関係者の皆様と連携を図りつつ、恒久的な堆砂対策の検討を進めるとともに、より確実な治水対策のため、放流能力の増強等を検討してまいります。

また、カーボンニュートラル(脱炭素化)に係る取り組みとして、ダム運用の高度化による水力発電増強の試行に取り組んでまいります。

今後も引き続き、地域の皆様の安全・安心、及び地域の発展のため、職員一丸となって取り組んでまいります。

# 活躍するコンサル・工事施工者

沼津河川国道事務所

令和3年度 河津下田道路6号橋橋梁詳細設計業務

オリエンタルコンサルタンツ

## インフラDXの活用で理解促進



管理技術者 田中 誠氏

本業務は下田市街地における交通混雑の緩和、交通事故の削減、地域の発展などを目的とする伊豆縦貫自動車道河津下田道路（I期）において、PC3径間連続コンボ桁橋（橋長L=104m）の橋梁詳細設計を実施したものです。

当該橋梁の架橋位置は住宅地で道路、河川、地下埋設物等が密集する区間でした。狭隘空間での工事となることから、工事用進入路の確保、騒音・振動・日照影響、地下埋設物との近接施工等の課題について安全・確実な施工方法を検討する必要があります。そのため、UAV測量による高精度な現況地形を反映した3次元モデルを作成し、施工ステップごとの重機配置によるヤード計画の妥当性やクレーン吊り荷の俯角影響による現道交通規制の有無等を検討しました。さらに、3次元の施工ステップ図に時間軸を加えた4Dモデルを作成し、施工計画と施工手順の妥当性を視覚的に検証し、施工計画の高度化を図りました。

また、近隣家屋への騒音・振動・日照等の環境影響について、2次元での騒音・振動影響検討に加え、3次元のBIM/CIMモデルにより、上部工形式や橋脚配置をパラメータとした日照シミュレーションを実施し、経済的かつ日照影響の小さい橋梁形式を採用いたしました。

上記の施工上の課題に加え、多数の交差物件や近接構造物との関係機関連議の遅れにより、工程遅延の懸念がありました。そのため、インフラDXを活用することで理解促進が図れ、関係機関と早期合意形成し、工期内に業務完了することができました。

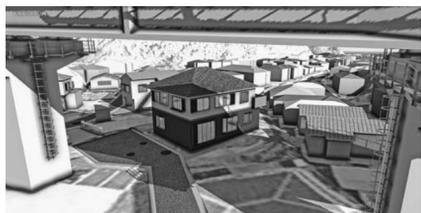
課題の多い業務でしたので、社内でも環境、施工等の専門技術者から何度もレビューやアドバイスをを受け、課題解決提案をさせていただきました。業務中は必死に取り組んでいましたが、振り返ってみると業務を通じて成長できたと感じています。



下部工施工時



上部工施工時



日照検討

岐阜国道事務所

令和3年度 21号岐大バイパス六条1号高架橋橋梁詳細設計業務

大日コンサルタント

## 一部橋脚の形状・送電線への対応に工夫



管理技術者 町 勉氏

本業務は国道21号岐大バイパス岐阜市内立休事業のうち高圧送電線と交差する橋長354m、曲線半径約800mの鋼6径間連続桁橋2橋（高架部上下線）と橋長193mの鋼4径間連続桁橋（ランプ橋）の橋梁詳細設計です。

センターランプを有するため、下部構造は様々な形状の鋼製橋脚で構成されていましたが、ランプ縦断の変更と合わせて、縦断コントロールとなるP4橋脚を特殊隅角型からT型へ変更することで、維持管理空間を確保するとともに、鋼重量削減によるコスト削減とCO<sub>2</sub>削減を図りました。（図-1）

国道21号は、5～8万台/日の交通量があり、工事期間中、交通への影響を最小にする計画が求められました。このため、構造上無理のない範囲で底版の偏心や縦長の平面形状を検討することにより、下部工事に伴う覆工板の設置範囲を最小化することで、工事期間の短縮とCO<sub>2</sub>の削減を図りました。

高圧送電線は、現状では高架部の施工時安全距離が確保できていなかったため、本業務にて嵩上げの計画を行いました。事業への影響を最小にするため、舗装工事の作業高をコントロールとした必要最小限の嵩上げ量を計画し、関係機関連議資料を作成しました。送電線直下の鋼製橋脚は、多軸式特殊台車による一括架設とし、送電線と交差する区間の鋼上部工は、構台上で地組した桁を多軸式特殊台車で送り出して架設する計画としました。（図-2）

岐大バイパス橋梁詳細設計は複数業務（令和3年度4社、令和4年度5社、令和5年度以降継続）で実施したため、受発注者合同打合せやコンサル会議の開催を働きかけるとともに、個別打合せ結果の情報共有を図ることで、設計の考え方や細部事項を統一するように努めました。

業務のあらゆる場面で効果的にBIM/CIMモデルを活用しました。具体的には、高圧送電線や平

面部の建築限界との離隔チェック、平面部の俯角影響範囲への剥落防止工の設置範囲の検討、沿道の温泉施設への目隠し板の設置範囲の検討、上空制限下での現道交通を確保した架設計画等にBIM/CIMモデルを活用しました。業務打合せ、設計審査会、関係機関連議等に活用することで、合意形成に役立てることができました。

今後も、業務を通じて、インフラDXを活用した生産性向上を推進するとともに、脱炭素化に向けたカーボンニュートラルの実現に向けて貢献していきたいと考えています。

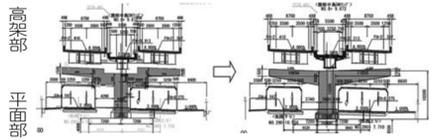


図-1 高圧送電線直下の鋼製橋脚の形状変更



図-2 高圧送電線直下の上部工架設計画



図-3 BIM/CIMモデルの全景

株式会社 **オリエンタルコンサルタンツ**

ORICONSUL

中部支社 名古屋市中村区名駅南2-14-19 電話 052(564)7711

**DAINICHI**

大日コンサルタント株式会社

岐阜市数田南3-1-21 電話 058(271)2501

静岡河川事務所

令和2年度 駿河海岸藤守離岸堤工事

五洋建設

## 最大級の有脚式をチームワークで構築



工事所長 前田 寛氏



現場代理人兼監理技術者 田中 優太氏

駿河湾は最深部が約2,500mにも達する急峻な湾であり、高波浪が減衰せずに進入しやすいことから、過去幾度となく高潮・高波などの被害に見舞われてきました。このため、1964（昭和39）年度より駿河湾直轄海岸保全施設整備事業が開始されました。本工事は同事業の高潮・侵食対策として、静岡県焼津市藤守地先に延長150mの有脚式離岸堤を施工するものです。有脚式離岸堤には上部に斜面を有するスリットケソン構造（S-VHS工法）が採用されています。

大井川沿岸背後地に有脚式離岸堤の本体となるRC上部工を約10カ月かけて計8基を製作しました。国内最大級である有脚式離岸堤の1基あたりの大きさは幅17.0m、奥行9.8m、高さ8.2mと高さはビル4階に相当する構造物となります。壁、梁、スラブ等、複数の部材で構成されるRC上部工は、コンクリートを4段階に分けて打設しています。鉄筋、型枠、足場支保工の組立など様々な作業が幅転するため、各作業の順序を調整し、特にクレーン災害、墜落・転落災害の防止対策に注力しました。

RC上部工製作完了後は、有脚式離岸堤の基礎となる鋼管杭の海上打設を行いました。本工事では、先行打設した6本の鋼管杭にRC上部工を挿し込むため、鋼管杭の打設精度が非常に重要です。鋼管杭の打設位置を決める仮設足場を正確に設置するための計画を策定し、実施しました。本設の鋼管杭打設時には2方向からリアルタイムに誘導し、3方向からの計測チェックにより、偏心量40mm以下の精度を実現しています。

鋼管杭打設完了後のRC上部工の据付には、長さ、高さ共に約100mの大型起重機船を使用（1400t吊）しました。重さ1000tを超える巨大な構造物を据え付ける作業は、やり直しが利かないため、細心の注意を払い、決行判断を行いました。波や風が静穏でなければならぬのですが、それでも船舶、RC上部

工共に上下左右に揺れ動くため、挿し込むことが出来るタイミングは様々な条件が揃う一瞬しかなく、ベテラン作業員の経験や的確な判断と総員のチームワークが求められました。

施工全般において、『安全対策の充実』、『精度・品質の向上』、『厳しい条件の克服』に取り組み、施工を完了させています。

本工事にあたり、地元の方や港湾関係者・漁業関係者等、多くの方々にご協力をいただきました。そうした方々のご理解の上で完成した有脚式離岸堤が、今後長期間にわたり、海岸の波浪低減、浜幅の確保、漁場の創生等、様々な効果に寄与することを願っています。



RC上部工据付状況



離岸堤施工完了

場所：静岡県焼津市藤守  
工期：2021年3月31日～2023年11月24日



**五洋建設株式会社**

名古屋支店 名古屋市中区栄1-2-7 電話 052(209)8950

被災地に向けてテントフォース入動



東海環状自動車道（岐阜県海津市南濃町地内）



国土交通省 中部地方整備局企画特集

暮らしに不可欠な社会資本整備

高山国道事務所

令和3年度 中部縦貫下切高架橋PC上部工事

鹿島

橋面高さを計測し変化量を綿密に管理



左から担当技術者の竹村雅志氏、現場代理人の伊藤彰晃氏、監理技術者の毛利浩二氏、担当技術者の宮下直幸氏、担当技術者の廣野幸範氏

中部縦貫自動車道は長野県松本市を起点とし、岐阜県高山市を經由して福井県福井市に至る総延長約160kmの自動車専用道路です。そのうち、高山清見道路は飛騨清見IC～高山IC間の延長15.2kmがすでに供用されており、高山IC～丹生川IC(仮称)の延長9.5kmが現在事業区間となっています。

下切高架橋PC上部工事は、高山ICから東に1.5kmほどの地点を流れる一級河川宮川と県道89号の上空に、プレストレストコンクリート橋を構築するものです。この橋梁は橋長276m、中央支間長は130mと比較的長大であり、橋脚の高さも約30mありますので、完成後は高山市街の北方に位置する高山清見道路のシンボリックな存在になると思われま

本工事は、2022年5月に着手し、脚頭部・柱頭部の施工が完了し、現在張出し架設を行っています。二つの橋脚からそれぞれ左右に17ブロックずつ主桁を構築する計画で、先月末現在3分の1程度が完了しています。今年12月には宮川上空で中央径間の主桁が連結し、橋体が完成する予定です。

張出し架設では、新しく打設したコンクリートの自重やPC鋼材の緊張、移動作業車の前進等によって主桁がたわむことで橋面の高さが変化します。施工では、予め算出したそれらの変化量を考慮して主桁を構築することで、完成後に橋面の高さが設計値と合うようにします。本橋は張出し架設長が50mを超えるため、施工中の橋面高さの変化量が非常に大きいという特徴があります。このため橋面高さの計測を正確に行い、計算値との差異を極力小さくするよう綿密に管理しています。

本工事では現場内外にデジタルサイネージを用いて情報共有しています。現場で働く作業員の皆さんが安全に作業できるように、現場で計測した気温や湿度をリアルタイムに表示し、熱中症への注意を呼びかけています。また、ピンポイント天気予報や1

時間後の予想降雨量を表示することでゲリラ豪雨に備えるとともに、風速や風向を表示させることで強風時の作業中止判断に役立てています。一方、現場近隣の住民の皆様に対しては本工事に少しでも親しみを感じていただけるように丁寧に説明することを心掛けており、工事の進捗状況や日々の作業内容を表示し、ご理解・ご協力をいただきながら安全第一で工事を進めています。



張出し架設状況



県道上空の施工状況

場所：岐阜県高山市下切町 工期：2022年3月1日～2024年2月28日

静岡国道事務所

令和3年度 1号清水立体尾羽第2高架橋鋼上部工事

名村・日塔JV

送り出し架設を工夫し条件克服



左から担当技術者の前田要氏、主任技術者の古賀竜也氏、現場代理人の古賀誠也氏、監理技術者の大島格文氏

本工事では、鋼4径間(P2～P6)連続非合成箱桁橋(橋長233m、幅員18,996m～32,396m)を製作し、架設を行います。

施工区間の一部(P4～P5)が庵原川を横断しており、この区間ではペントを立てることができないため、この区間では送り出し架設で架設します。P3～P4間に送り出し用の仮設構台を組み、その上で台車と油圧ジャッキを使って送り出します。国道1号線に挟まれた場所での工事となるため、主桁を一括で送り出すことはできず、中央で送り出し、その後横取り、降下と主桁を径間ごとに1本ずつ送り出します。

P3～P4間はペントを組み立てることが可能ですが、送り出し構台を組んでいるためそのまま構台を利用して送り出し架設をします。P2～P3、P5～P6区間はペントを組み立てて、クレーンペント工法で架設します。

国道1号線沿線での架設工事となるため、ほとんどの工程は夜間に交通規制を伴った作業となります。暗い中での高所作業となるため、照明の確保等昼間作業よりも安全への配慮が必要となります。作業によっては片側の車線を完全に通行止めにした対面通行規制を行う必要があり、迂回路等通行への配慮も必要です。さらに、夜間工事なので近隣住民の方への騒音対策も必要になります。また、作業場所は狭い中央分離帯なので資材置き場、安全通路、工事車両の駐車スペース等作業場所の確保も難しくなっています。

当現場は、視察や見学の依頼が多数あり、先日も静岡市職員向けに現場研修会を開きました。約30人が来てくださり、送り出し構台に上がって送り出し途中の主桁や送り出し装置等を、説明を交えながら見学していただきました。

場所：静岡市清水区尾羽 工期：2021年9月10日～2024年2月27日



P4～P5橋脚送り出し架設状況



P4～P5橋脚送り出し架設状況



P4～P5橋脚送り出し架設完了

名村・日塔特定建設工事共同企業体



株式会社 名村造船所 NAMURA SHIPBUILDING CO.,LTD.



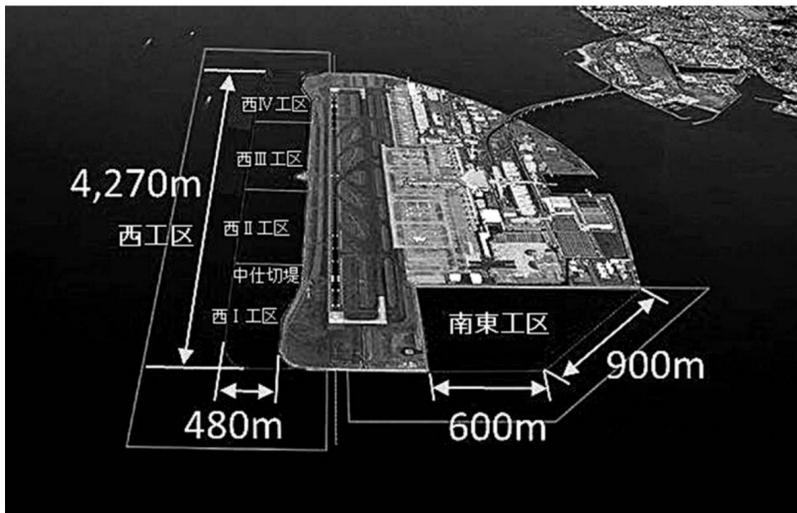
日本鉄塔工業株式会社

大阪市西区売場2-1-9 電話 06 (6543) 3561 東京都江東区新砂1-6-27 電話 03 (3645) 3186

100年をつくる会社 鹿島

中部支店 名古屋市中区錦2-20-15 電話 052 (307) 5111

名古屋港新土砂処分場プロジェクト



中部国際空港沖

新土砂処分場は、中部国際空港島の西側と南東側に整備する。埋め立て面積は294.4ha、護岸延長は7.7km。計画では、名古屋港内の浚渫で発生する土砂1,800万立方メートル、ポットアイランドの仮置き土砂2,000

万立方メートルを受け入れる。西I区、南東I区の埋め立て面積はそれぞれ230ha、64ha。土砂処分場の早期確保などを図るため、西I区はI～IV区に分割、埋め立てを開始する。護岸工事は最初に南側の西I区に着手し、その後北側のIV区、その後II区、III区順で完成させる予定だ。南東I区も護岸整備を進め、西I区に引き続き埋め立てを行う。

そこで候補地に挙がったのが、常滑市セントレアの中部国際港沖。中部整備局は2020年4月に環境影響評価(環境アセス)手続きを完了し、21年2月に「中部国際港沖公有水面埋立承認書」を愛知県へ提出、同年5月に承認を得て事業に着手した。調査や設計を進め、22年2月から西I区護岸の基礎工投入を開始している。



ガット船による石材投入作業

護岸完成後に順次埋め立てへ

中部のものつくり産業をさらに発展させる。名古屋港は、総取扱貨物量や輸出入額、貿易黒字額で全国1位を誇る。日本有数の貿易拠点として役割を果たしているが、名古屋港に注ぐ庄内川などから年間約30万立方メートルの土砂が流入する。岸壁前面の泊地の埋没を防止し、大型船舶の航行も滞りなく確保できるように維持・強化するためには、継続的に浚渫する必要がある。



所長 太田 喜之氏

独自システムで確実な施工を

高性能GNSS S機器を用いた石材投入管理システムにより、投入位置の履歴を表示するシステムと併せ、クレーンアーム先端の高さ・位置情報をリアルタイムかつ正確に管理することで、より確実な施工を可能とします。安全管理では、同工事区域内に5件の工事が施工するため、作業船の運航や係留の際は事前に調整が必要となります。そのため、毎週行われる週間工程会議や安全協議会定例会において、発注者と施工業者間で情報共有を図り、事故の防止に努めています。今回の現場を統括するにあたり、空港運用に支障となる事象発生を未然に防止するとともに、工事関係者すべての方々が、より安全に、より快適に活動できるよう最善を尽くします。

令和4年度 名古屋港新土砂処分場埋立護岸基礎工事(その5)



所長 高橋 三矢氏

施工の可視化で効率アップ

効率化を図っていきます。航空制限下での夜間作業となるため、航空障害トラブルを起こさないよう作業船の位置および高さが確認できるシステムを使用し、トラブルを未然に防止します。大型船舶や一般航行船舶の往来が頻繁な場所での施工となるため、安全監視船を3隻配置し、作業船舶と一般航行船舶への注意喚起を行うことで船舶同士の衝突防止に努めます。ICT技術の導入により、施工の効率化、省人化を行っていきま

令和4年度 名古屋港新土砂処分場埋立護岸基礎工事(その4)



工事所長 門脇 雅浩氏

専用システムを用いた安全管理

規制管理を専用のシステムを用いリアルタイムに監視し、安全管理を行います。また、IP無線機を各工事用船舶等に配備することで、緊急時でも現位置情報の把握および連絡体制の確立を可能にします。暑い時期での作業となるため、熱中症予防のための施策を徹底します。現場内のコミュニケーションの充実を図り、働くもの皆が一体となって、日々リスクの洗い出しや低減策を考え、実践しながら事故や災害の防止に努めます。また働き方改革を踏まえ、時短や休日確保に向けた一層の生産性向上に資する取り組みを推進します。

令和4年度 名古屋港新土砂処分場埋立護岸基礎工事(その3)

東亜建設工業 名古屋支店 名古屋市中区錦3-4-6 電話 052 (957) 6911

みらい建設工業株式会社 中部支店 名古屋市中川区月島町6-1 電話 052 (618) 8791

五洋建設株式会社 名古屋支店 名古屋市中区栄1-2-7 電話 052 (209) 8950